

今日はお帰りに福玉精穀倉庫株式会社さまからご奉納頂きました福餅を準備させて頂いております。ほんの少しではございますが、家族の皆様と神恩と共にお召し上がりいただきたく存じます。

さて、本日の卓話は「建築儀礼について」でございます。

建築儀礼というのは、家を建築する過程で行われる各種儀礼の総称です。その中で皆様方に一番なじみが深いのが、建物を建てさせて頂くに当たり、その土地をお守りくださっておられ神様にご挨拶をさせて頂き許しを請い、工事の無事を祈願する地鎮祭だと思いません。その他に柱を組み上げる際に行なわれる立柱祭、「むねあげまつり」ともいわれ、棟木を棟に上げる際に、家屋の守護神、工の神にこれまで工事が無事進んできたことへの感謝と竣工迄の順調な進捗への加護を祈念する上棟祭、「いしずえさだめのまつり」と称し、建物の礎石を据え定める定礎式、建物が完成した際に行う竣工祭や入居前に行う家祓(清祓)などがあげられます。

この中で今日は「地鎮祭」について」お話をさせて頂きます。

家を建てるにあたり「地鎮祭」を行います。家を建てることは人生においての一大事。資金計画、土地の選定、家を建てた後の生活設計も大きく影響します。その人や家族にとって大変希望に満ちたことであると同時に、不安も伴います。そこで家を建てる工程とその後の暮らしの平穏無事を神様に願う、建築儀礼が古くから今日まで続いてきております。

日本には古くから、山には山の、海には海の神さまがいらっしゃるという信仰があります。土地には土地の神さまがいらっしゃり、加えて樹木や土、石、草など全ての物に神様が宿るといふ信仰があり、この世のものは神様の物で有り、私達は使わせて頂いているという考えが古来からあります。

家を建てる際には、それぞれの神さまに祈りを捧げ、感謝の念を持つことが良いとされてきました。

建築儀礼の歴史は古く、最も年代を遡るところでは、今から1700年前、弥生時代の大規模集落と確認された大阪府の池上曽根遺跡では大型の高床式建物の棟持柱の柱穴から、その土地の神さまを鎮める為とみられる勾玉が見つかっています。また、平安時代には宮殿の新築時や大きな神事の前後に「大殿祭」と呼ばれる祭儀が既に行われていました。これは宮殿の災害を予防し、平安を祈願するためのものでした。

地鎮祭は「とこしずめのまつり」「ちんぢさい」「ぢまつり」といろいろの呼び名があります。国土守護の大地主大神と建設場所の守護神である産土大神をお祀りし、土地の使用の承諾を得、工事の無事進行と土地、建物の安全堅固、弥栄を祈願するお祭りであります。

地鎮祭と同様なお祭りに起工式があります。起工式は、古式にのっとると、主として木造建築においてまず手斧初(斧 ちょうなはじめ)があり、鋸の儀(のこぎりのぎ)、墨打の儀、手斧打(ちょうなうち)の儀など、この一連の儀式が起工の行事と考えられておりましたが、最近では、これらの行事は、神社やお寺の大きな建造物など特殊なとき以外行なわれなくなっております。

代わって、多くの場合鍬入れが起工を表わすものとなっております。

現在では、自治体などが主催して行うものを起工式と呼んでいます。本来地鎮祭と起工式とは別々の祭祀であり、建物を建築するに当たって、まず地祭りを行ない土地を清め、然る後、起工式を行ない着工に当たり土地を耕す儀式を行うのが本義と考えられております。

次に地鎮祭の次第について説明をさせて頂きます。

○修祓の儀

手水を行なって、口と手を清め、斎場に入り式が始まると、まず修祓の儀が行なわれる。修祓とは、罪、けがれ一切を除き去るためのお祓いであり、神離、神饌、玉串、その他の諸式具を祓い、次いで、

参列者をお祓い致します。神道では人はもともとけがれの無い清らかなものとしており、この原点に戻るのが祓いであり、如何なる祭典に於いても、必ず修祓が行なわれます。これによって神様をお迎えする準備が整います。

○降神の儀

修祓によって祓い清められた式場へ、神をお迎えする儀式であります。降神は神官が「土地をお守りくださってお居られます神様に天下って下さい」といった意味のお迎えの詞を奏し、警蹕を発声し神籬に暫しお留まり頂く儀式です。

○献饌の儀

神饌を神様にお供えする儀式。神饌は「御食」ともい、神々へのお供え物の総称であります。

一般には生饌(せいせん)といわれる、生のままのものが用いられ、匂いのきつい物、じゅう肉は避け、姿、形が良く清浄なものを用います。

先ず、米、酒、餅、海魚、川魚、海藻、野菜、果物、菓子、塩、水等が供えら、それらは、三方盛り合わせ、神様をお迎えした後に、お供えするのが本義ですが、一般の建築の儀式の場合は、殆ど省略されて、あらかじめ供えておき、瓶子と呼ばれる神酒の蓋とお水の蓋をとるだけに止めています。

○祝詞奏上

祝詞奏上とは儀式の中で最も厳粛なもので、式典の中の最重要行事でもあります。

土地を使わせて頂く了解を得、工事の安全、その家の繁栄を祈願致します。

○散供、切麻散米の儀・四方祓いの儀

散供、切麻散米、または四方祓いといい、米、塩、切木綿、切麻を土地の神様のお供えとして捧げると共に土地を清める儀式です。



○鎮物埋納

神様への捧げものである鏡や剣、勾玉、人形をお供えとして納める儀式。

○玉串奉奠の儀

玉串は、榊の枝に紙垂(しで)を付けたものが用いられている。古くは、玉、糸、布などをつけたものが用いられ、神への手向けものを意味するものであります。北関東より上は、榊が育たない為常緑樹を用いています。建物を建てさせて頂く許しを請い、工事の安全を祈願致します。



○撤饌の儀

神様に元の処にお帰りになられるに当たり、お供えを下げる儀式。

○昇神の儀

降神の儀でお迎えした神を元の御座(みくら)にお還しする儀式であります。

「この神籬においでになる神たち、元の御座にお還りになりますよう恐れながら申し上げます。」という意味の昇神詞が奏せられ「ウォー」と警蹕を掛けます。

○直会

直会は、関係者一同が神酒など神饌のお下がりをご頂戴することをいい、神人和楽を図り、神様のご加護を願うと共に、互いに協力し合うことを誓い、ある場合には、労をねぎらうものであります。したがって、昇神の儀をもって儀式は終わりではなく、直会の儀までがその式典の儀式であると考えられています。

以上が簡単ではございますが、地鎮祭についての説明であります。

最後となりましたが、犬山ロータリークラブの益々の隆昌と会員の皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、私の拙い話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

＝お礼(稲垣圭次会長)＝



ありがとうございました



ご報告

○2024-25 年度 合同委員会

2024-25 年度合同委員会(全会員対象)を3月12日(火)にクラブ管理運営戦略系、3月26日(火)に奉仕プロジェクト系を大安にて18時より開催致しました。

○新会員研修会

3月14日(木)松屋2階にて18時より新会員研修会を開催いたしました。

○犬山 RC 同好会ゴルフ部だより

去る3月21日(木)犬山カンツリー倶楽部におきまして第185回ゴルフコンペを開催致しました。多くの皆さまにご参加いただきありがとうございました。新ハンディでのコンペとなりましたが、ちょっと風が強くとスコアをまとめるのが大変でしたね。

ご参加頂きました皆様、大変お疲れ様でした！成績は以下のような結果となりました。

	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET	
優勝	稲垣圭次さん	54	55	109	36	73
準優勝	松井隆幸さん	51	53	104	27	77
第3位	保浦博志さん	50	48	98	21	77
ベストグロス	丹羽敬昇さん	42	44	86		

ドラコン	ホール	1	加藤浩一さん
		7	朱宮新治さん
		11	安田一生さん
		14	朱宮新治さん
ニアピン	ホール	4	該当者なし
		6	加藤浩一さん
		13	保浦博志さん
		17	丹羽敬昇さん

稲垣会長、優勝おめでとうございます！一緒にまわったメンバーに恵まれたということをお願い致します！入賞された皆様、おめでとうございます！

次回は4月11日(木)となります！これからゴルフが楽しくなるシーズンですね！多くの皆さまのご参加をお待ちしております！



優勝
おめでとうございます！

